

「絵で表現した讃岐弁講座 ごじゃハゲでござんす！」

を開催しました

平成22年10月24日に藤本 誠さんを講師にお迎えし、講座を開催しました。

ふるさとを離れて懐かしいものとして、自然の風景、幼馴染みや知人、食べもの、そして方言があげられるというお話からスタートしました。

意外なことに、現代では若い人の方が方言をカッコいいと感じている傾向があるそうです。しかし、使われる讃岐弁の語彙はだんだんと少なくなっています。昔は二世帯・三世帯が一緒に住むのが普通でしたが、核家族化してお年寄りとのコミュニケーションの機会が減ってゆき、なかなか方言も伝わらなくなったという背景があるということでした。

藤本さんは、形のないものを形に表していくのが面白いと考え、みんなに「面白い！」と思われる形で方言を残せないかと、讃岐弁の世界をグラフィックデザインで表現し、それをパネルにしました。それから10年ほどに渡って現在まで、全国的にも珍しい方言と



グラフィックデザインを融合させた作品を、数多く作成しています。

講座ではそれらの作品が次々とスクリーンで映し出され、藤本さん独特の語りを交えて紹介されました。

「いよいよじゃわ〜」「なんしにじゃわ〜」「ちみきる」「ハラがおきる」「おとっちゃま」など、他県の人々が聞けば「？」な讃岐弁の数々に、受講者の皆さんからも笑い声



や「へえー」と頷く声が挙がりました。

また、講座にあわせて、館内では藤本さんの「面白讃岐弁パネル展示」も開催され、受講者の皆さんだけでなく、来館された多くの方にユーモア溢れる讃岐弁の世界を楽しんでいただきました。